

## 令和4年度SSH探究Ⅱ成果発表会

実施日程 令和5年2月2日（木）

担当教員 探究Ⅱ指導教員27名 SSH委員会12名

実施場所 本校 物理講義室、化学講義室、生物講義室、視聴覚、3-4教室、3-2教室、LAN教室

参加生徒 1・2年生全員



### ■ 仮説

4月から実施した探究活動の成果を、プレゼンテーションソフトを利用した口頭発表形式で行い、有識者の指導助言を受けることにより、1年間の課題研究活動の成果を確かめることができる。また、見学生徒に積極的な質問を促し質疑応答を活発化することで、発表生徒のプレゼンテーションが聴衆レベルに応じたものとなっているかどうかの気付き、見学生徒の問題意識を伴った聞き方につなげることができる。次年度、本格的な探究活動を行う1年生が2年生の成果発表を見学することにより、2年次の研究活動の具体的なイメージを持つことができ、自ら課題を設定するための一助となる。

### ■ 実践

校内の6会場において、探究Ⅱ理系スタンダード選択生徒及び科学系部活動の32班がプレゼンテーションソフトを用いた口頭発表による成果発表を行った。このうち英語による口頭発表は25班で、全体に占める割合は71%であった。また、物理・化学・生物スタンダードの班は英語版発表要旨も作成した。Abstractについては全班が英語で作成した。丁寧で内容が聴衆に伝わりやすい発表となるように、発表時間を8～10分間とした3年目の実践であった。1・2年の全生徒が発表を見学し、見学レポートを提出した。各部屋に運営指導委員1～2人が入って質疑に参加し、発表についての講評を行った。指導教員はルーブリック表に従って発表技能の採点を行った。加えて探究の授業を担当していない他教科の教員（担当外評価と表記）も審査に加わり、専門外の視点から発表内容がどれくらい聴衆に伝わるものであったかについて、各班の評価を行った。併せて科学系クラブから2班が口頭発表を行い、2つが展示の形で発表会に参加した。SSHの校外活動に参加した生徒が図書館でポスター展示を行った。また文系探究Ⅱスタンダード・ゼミ選択生徒19班、展示を希望した探究Ⅱの4つのゼミが展示を行った。

### ■ 評価

英語に不慣れな1年生のために、英語による口頭発表班はスライドを日本語（または英語と日本語の併用）表記とした。ただでさえ難しい内容を英語で説明するという、聴衆のレベルを無視した発表となることを、これにより防ぐことができ、発表者の英語力とプレゼンテーション能力の両方を養うことができた。また、日本語での口頭発表班は、スライドを英語にすることで、自分の発表内容を英語で表す能力を養うことができた。生徒は着席した多数の聴衆の前で、堂々とパワーポイントを駆使して発表を行った。質疑応答を英語で行う班もあった。発表を聞いた1・2年生にレポートを課すことで聞く態度も向上し、次年度の課題設定のために発表会が役立った。1・2年生ともに、見学生徒には、自身の理系・文系選択にかかわらず両方の見学をするよう課していることから、今後の文理融合的な取組みの土壌が培われ、また、発表生徒にとっては文系生徒にも伝わる発表を心がける等の工夫がなされた。また質疑応答が活発化するように、発表要旨を発表会前にGoogle drive上に公開し、見学生徒たちは要旨を読んだ上で発表会に臨んだ。生徒たち審査員の評価および見学レポートは当該発表生徒に還元しており、発表後の授業にて自身の発表の評価やどのように聴衆に伝わっているのか振り返る機会を設けた。会場運営や担当外評価については多くの部

分を理科・数学・情報以外の教員で担い、SSH事業が全校的な取組みとして定着していることを、確認できた。運営指導員からは、質問が非常に活発に出ていた、英語力が向上していた、発表力の顕著な向上が見られたという意見をいただいた。一方で、考察についてよりその根拠をしっかりとるように、外部で発表する機会を増やしたらよいという指摘をいただいた。